

5-2. 2) 整備イメージ 吹田キャンパス

- 5
・散策路を拡張してアクセシビリティを高める
・平地にポケットパークを整備する
・遊水池および周辺の景観を整備する

計画条件

- 空間の骨格イメージを基に良いところを伸ばす計画とする。
- ディベロップメントプランとの整合を計る。
- 屋外平面駐車場の一部を立体駐車場に移行し、跡地を広場・緑地等のオープンスペースに転用していく。
- 保全緑地、保全空地を定義する。
- 周辺地域の景観に配慮したキャンパスエッジの整備を行う。千里門周辺は来訪者を受け止める大学の顔としてリニューアルを進める。万博公園側は、公園へのアクセシビリティを高める整備を行う。
- * 吹田キャンパスは、外部空間再編の余地が比較的多く残されていることから、道路、歩道、広場、保全緑地等の配置計画は、空間の連結の方向性や再編の場所の指定など、空間構造の全体的な枠組みを提示する（凡例参照）。**

- 4
・図書館とGSE棟に挟まれたオープンスペース帯は、植栽を減らして人が集まる広場として整備する
・GSE高層棟の大階段から図書館のアプローチまで一貫的な景観を創出する

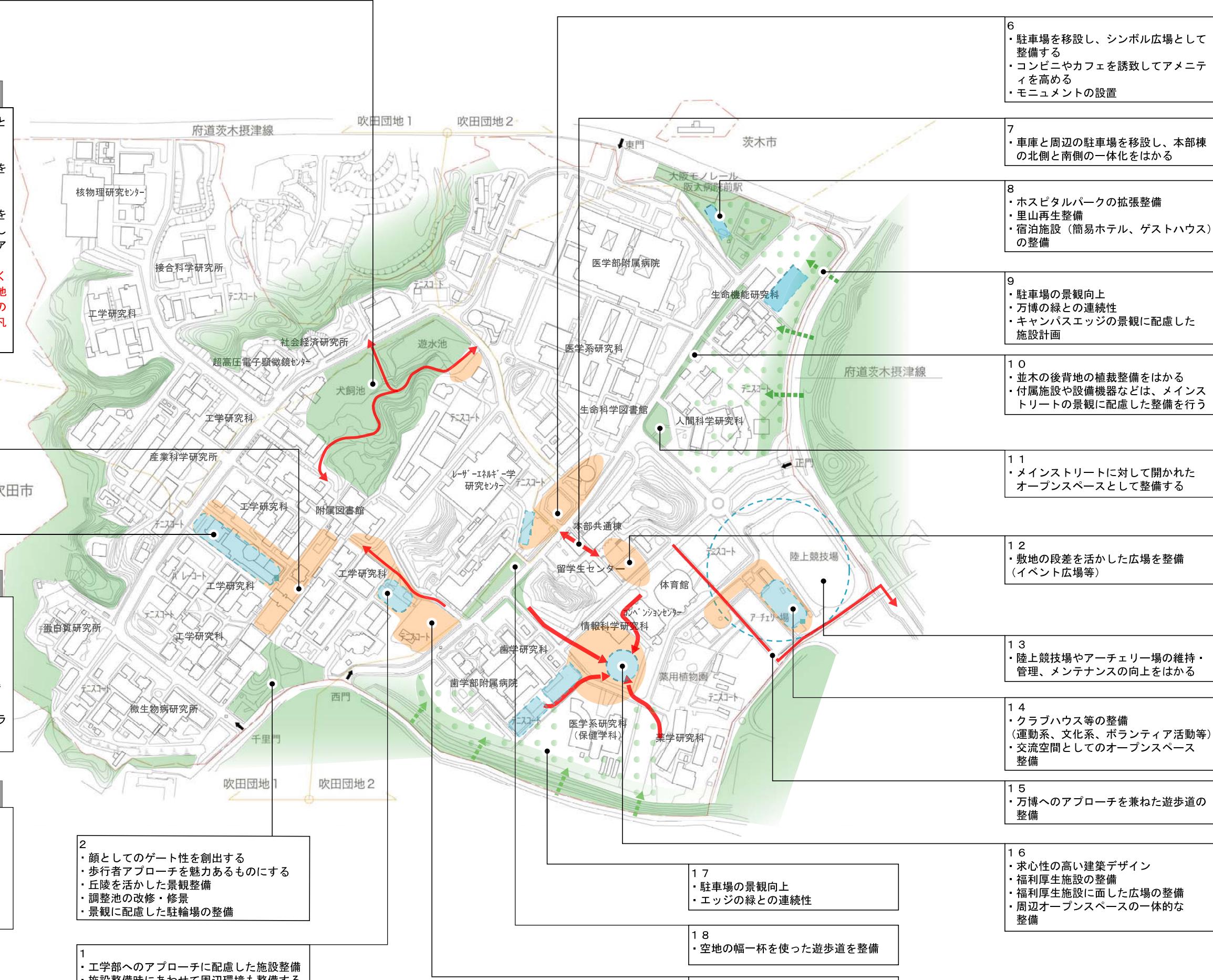
- 3
・福利厚生施設を建て替え、外部に開かれたオープンな空間づくりを行う
・歩行者専用路を一体的に整備する

今後の重要な検討項目

- 立体駐車場の規模設定・整備場所の検討
- 宿泊施設の規模設定・整備場所の検討
- モノレール周辺地区の整備
調整池の人工地盤整備、宿泊等福利厚生施設の整備、キャンパスエッジとしての景観形成
- キャンパスコア（事務局棟・バスロータリー）に整備すべき施設の検討
宿泊施設、コミュニケーション棟、カフェ、レストラン等

凡例

- オープンスペース（広場・緑地等）の再編・整備
- ディベロップメントプランでの計画建物
- 街路・広場等による空間の連結・アクセシビリティの強化



1:6000

0 50 100 200 300 400 500m